

科目名称	理学療法評価学実習 (1組)
授業コード	BG375
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 小山 優美子, 松葉 潤治
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価方法を教授する。評価項目の中で神経学的検査を中心に、他理学療法に関連する評価法の実践的な方法について、実技実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる 本科目では以下を到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義・目的を理解する。 2. 検査・測定方法の手順を理解する。 3. 評価時に必要なコミュニケーションや対象者に対する配慮の仕方を理解する。
計画・内容	第1・2回：血圧・形態測定 担当教員：松葉(理学療法士)/小山(理学療法士)/塚田(理学療法士)/奥田(理学療法士) 第3・4回：反射・筋緊張検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第5・6回：感覚検査 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第7・8回：実技まとめ (血圧・形態測定) 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第9・10回：実技まとめ (反射検査・感覚検査) 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第11・12回：片麻痺機能検査 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第13・14回：脳神経検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第15・16回：協調性検査 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山 第17・18回：バランス検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第19・20回：実技まとめ 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第21・22回：評価プロセスの理解・記録 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田 第23・24回：情報収集・医療面接 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山

計画・内容	<p>第25・26回：痛みの評価、骨関節系障害の評価 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田</p> <p>第27・28回：神経系障害の評価 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山</p> <p>第29・30回：実技まとめ（再） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の解説および実演を経て、実技演習を中心に行う。 ・単元ごとに実技確認テストを行い理解度を確認する。 ・各回の授業前に該当箇所の小テストを実施するため、事前に学習を進めておくこと。
能動的な学びの実施	<p>解説・実演時の内容を把握し、実技演習回ではスムーズに実技演習ができるように積極的に事前準備をして望む。</p> <p>授業項目ごとに確認テストとその解説を行い、授業項目ごとに理解度の振り返りを行う。</p> <p>アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。</p>
授業時間外の学修	<p>【授業時間外の学習(合計60時間程度)】</p> <p>予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。</p> <p>復習：該当箇所の知識の確認、実技の練習を行い、不明な点を整理する。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> * リハビリテーション基礎評価学第2版,羊土社 * ベッドサイドの神経の診かた,南山堂 * PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版,金原出版
成績評価方法と基準	<p>【成績評価方法と基準】</p> <p>実技試験 60%(実技まとめ . . . :各20%×3)+筆記試験 40%</p> <p>実技試験の評価はルーブリック評価を用いる。</p> <p>授業参加態度や小テストの実施状況を成績に加味することがある。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> * 各回に小テストを実施し、その場で解答を確認する。 * 実技試験実施後は、個別あるいは全体に口頭でフィードバックを実施する。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	<p>初回ガイダンスで下記事項について説明するため、十分に留意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の使用教科書について ・集合場所は基本的に指定教室となるが、指示がある場合はそれに従うこと ・服装は原則として毎回ケーシーとする。その他通常授業回、実技試験回で身だしなみに関する諸注意があるため、留意すること ・授業内小テストにおいて一定の基準に満たない場合は再テストを実施する。 <p>小テストを欠席した場合の追テスト、再テストを無断欠席した場合には成績に考慮する可能性があるため、注意すること</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方・zoomによる授業に切り替える(課題学修と組み合わせる場合がある)</p> <p>online授業にて解説および演習をおこなう。</p> <p>成績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する(課題提出状況も含む場合がある)

科目名称	理学療法評価学実習 (2組)
授業コード	BG375B
英語名称	Physiotherapy Evaluation Practice
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 小山 優美子, 松葉 潤治
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価方法を教授する。評価項目の中で神経学的検査を中心に、他理学療法に関連する評価法の実践的な方法について、実技実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる 本科目では以下を到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義・目的を理解する。 2. 検査・測定方法の手順を理解する。 3. 評価時に必要なコミュニケーションや対象者に対する配慮の仕方を理解する。
計画・内容	第1・2回：血圧・形態測定 担当教員：松葉(理学療法士)/小山(理学療法士)/塚田(理学療法士)/奥田(理学療法士) 第3・4回：反射・筋緊張検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第5・6回：感覚検査 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第7・8回：実技まとめ (血圧・形態測定) 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第9・10回：実技まとめ (反射検査・感覚検査) 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第11・12回：片麻痺機能検査 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第13・14回：脳神経検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第15・16回：協調性検査 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山 第17・18回：バランス検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第19・20回：実技まとめ 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第21・22回：評価プロセスの理解・記録 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田 第23・24回：情報収集・医療面接 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山

計画・内容	<p>第25・26回：痛みの評価、骨関節系障害の評価 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田</p> <p>第27・28回：神経系障害の評価 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山</p> <p>第29・30回：実技まとめ（再） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の解説および実演を経て、実技演習を中心に行う。 ・単元ごとに実技確認テストを行い理解度を確認する。 ・各回の授業前に該当箇所の小テストを実施するため、事前に学習を進めておくこと。
能動的な学びの実施	<p>解説・実演時の内容を把握し、実技演習回ではスムーズに実技演習ができるように積極的に事前準備をして望む。</p> <p>授業項目ごとに確認テストとその解説を行い、授業項目ごとに理解度の振り返りを行う。</p> <p>アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。</p>
授業時間外の学修	<p>【授業時間外の学習(合計60時間程度)】</p> <p>予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。</p> <p>復習：該当箇所の知識の確認、実技の練習を行い、不明な点を整理する。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> * リハビリテーション基礎評価学第2版,羊土社 * ベッドサイドの神経の診かた,南山堂 * PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版,金原出版
成績評価方法と基準	<p>【成績評価方法と基準】</p> <p>実技試験 60%(実技まとめ . . . :各20%×3)+筆記試験 40%</p> <p>実技試験の評価はルーブリック評価を用いる。</p> <p>授業参加態度や小テストの実施状況を成績に加味することがある。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> * 各回に小テストを実施し、その場で解答を確認する。 * 実技試験実施後は、個別あるいは全体に口頭でフィードバックを実施する。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	<p>初回ガイダンスで下記事項について説明するため、十分に留意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の使用教科書について ・集合場所は基本的に指定教室となるが、指示がある場合はそれに従うこと ・服装は原則として毎回ケーシーとする。その他通常授業回、実技試験回で身だしなみに関する諸注意があるため、留意すること ・授業内小テストにおいて一定の基準に満たない場合は再テストを実施する。 <p>小テストを欠席した場合の追テスト、再テストを無断欠席した場合には成績に考慮する必要があるため、注意すること</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方・zoomによる授業に切り替える(課題学修と組み合わせる場合がある)</p> <p>online授業にて解説および演習をおこなう。</p> <p>成績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する(課題提出状況も含む場合がある)